

推進の柱
2お互いにささえあい、
必要な人に支援が届く仕組みづくり

お互いにささえあい、必要な人に支援が届く仕組みづくり

重点項目〈柱2-1〉

支援が必要な人に必要な情報を届けます

2-1-1

地域情報の収集と発信

2-1-2

福祉教育・福祉学習の推進

重点項目〈柱2-2〉

様々な人がつながり、お互いに支え合える地域づくりを進めます

2-2-1

当事者やその家族、多世代の交流を深める取組の推進

2-2-2

見守り・支え合いのネットワークづくりの推進

2-2-3

権利擁護の推進

重点項目〈柱2-3〉

いきいきと健やかに暮らせる地域づくりを進めます

2-3-1

地域主体の健康づくりの推進

2-3-2

子どもや働き・子育て世代の健康づくりの推進

2-3-3

健康づくり・介護予防の推進

2-3-4

保健・医療・福祉等の多分野による連携の促進

現状と課題

- ◆高齢者福祉や障害者福祉、子育て・児童福祉等の各分野において、利用者がサービスを選択・決定する仕組みが整えられていますが、必要なサービスを選択するための情報を得ることが難しいという状況もみられ、必要な人に必要なサービスが行き届くよう今後も務めることが必要です。
- ◆様々な情報がインターネット等で誰でも入手できる状況にある一方で、量も種類も多いことから、「困りごと」や「生活しづらさ」に直面している人にとって、本当に必要な地域情報や福祉保健情報が届くよう、その人の状況に応じた情報提供が求められています。
- ◆孤立を防ぎ、困ったときにお互いに支え合える関係を築くためには、お互いの状況を理解し、住民同士が日頃から交流を深めることが求められます。そのためには、その人が抱えている困難に対する正しい理解が進むことが必要です。

柱2-1-1

地域情報の収集と発信

柱2-1-2

福祉教育・福祉学習の推進

将来の目指す姿

- 1 地域で活動する人や団体が地域課題を解決するために、適切に情報を収集し、活用ができています。
- 2 認知症や難病、障害の特性、子育てに関する悩みなどについて知り、理解が進んでいます。
- 3 自ら情報を得ることが困難な高齢者や障害者等であっても、情報が遅滞なく、確実に伝わるよう、必要な情報を得る機会や仕組みが工夫されています。

コラム

地域情報を発信 ～「つづき あい通信」「しゅんらん」「地域ケアプラザ情報紙」～

身近な地域で行われているさまざまな福祉保健活動や毎年開催される活動発表会の様子などを掲載する都筑区役所発行の都筑区地域福祉保健計画情報誌「つづき あい通信」。地区社会福祉協議会の活動やボランティア関連情報、助成金の申請団体募集などを掲載する都筑区社会福祉協議会発行の「しゅんらん」。そして、より地域に密着したリアルタイムに必要なとされる情報や、気軽に参加出来る活動・講座情報等を掲載している地域ケアプラザ情報紙(けあぷら通信、ケアプラだより等)。


こうしたさまざまな広報紙面を活用して情報発信を行うことで、幅広く多くの人に必要な情報が届くように努めつつ、地域における福祉保健活動の推進支援を行っています。

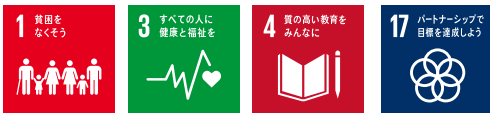


つづき あい通信

しゅんらん

地域ケアプラザ情報紙
(一例)

| 柱2-1-1 | 地域情報の収集と発信 |
|--------|---|
| 内容 | <p>(1)地域の福祉保健に関する情報や地域活動情報等について、集約・整理を進め、情報を必要とする人が必要に応じて情報を活用できるよう環境整備を進めます。</p> <p>(2)自治会町内会、地区社協等と区役所、区社協、地域ケアプラザ・福祉保健活動拠点等との連携により、より多くの人が身近な地域で情報の発信・収集・活用ができる体制づくりを進めます。</p> <p>(3)地域で支援を必要としている人々の生活を支えられるよう、住民主体の地域活動(インフォーマルサービス)の情報集約と整理を進め、行政等が行う公的サービス(フォーマルサービス)との協働を推進します。</p> |
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ◆地域における福祉保健に関する取組の発表会の実施や情報誌の発行 ◆地域課題の解決を検討する場の充実・活性化 ◆ホームページを活用した障害理解の啓発や障害者福祉サービスの情報提供 ◆子育て支援センターと連携した子育て情報の提供 |
| 活動指標 | <p>【定量評価】 地域懇談会の開催数・参加人数 現状値(令和元年度):15回・756人 目指す方向性:↗</p> |
| SDGs |  |

| 柱2-1-2 | 福祉教育・福祉学習の推進 |
|--------|--|
| 内容 | <p>(1)住民だけでなく、企業、教育機関などへ認知症や障害、子育ての悩みなどへの理解と接し方に関する啓発を行い、それぞれができることは何かを考える機会をつくります。</p> <p>(2)学校や企業、地域等を対象に困難を抱えている人を理解する機会が得られるよう、ボランティア体験講座等を開催します。</p> |
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ◆認知症や難病、障害特性、子育てに関する悩みなどについて広く理解をすすめます ◆支援が必要な人に、的確かつ迅速に情報が届くよう、地域の相談役である民生委員・児童委員に対して、生活保護制度をはじめ、様々なテーマについて研修を実施 ◆福祉教育、社会教育の推進による福祉啓発・福祉意識の醸成 |
| 活動指標 | <p>【定量評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●認知症サポーター養成講座受講者数(累計) 現状値(令和元年度):26,129人 目指す方向性:↗ ●区内小学校と連携した「命の授業」実施回数 現状値(令和元年度):22回 目指す方向性:→ |
| SDGs |  |

コラム

精神保健福祉サロン You&Me（中川地域ケアプラザ）

「精神保健福祉サロンYou&Me」は、地域向けの福祉教育の取組のひとつでもあった精神保健福祉プログラム「傾聴ボランティア講座」をきっかけに、平成23年に地域のボランティアと中川地域ケアプラザが共催で立ち上げました。サロンは、毎月第2木曜日に開催しており、心を病む人やその家族が集い心穏やかに過ごす場となっています。また、心に病のある女性限定のフリースペース「みんと」、主に高次脳機能障害の人を対象とした夜間開催の「フリースペース Danke」と連携を取り、3つのサロンとの間で相乗効果を図りながら多様な選択肢を提供しています。

さらに、傾聴ボランティアは福祉学習として傾聴の勉強会「輝きの海」を立ち上げ、当時より継続して勉強を続けています。年2回外部講師による講座を開催し、隣接区の親の会や関係機関スタッフ等に広く呼びかけ、精神障害への理解や知識を深める啓発活動を行っています。



精神保健福祉サロン You&Meの様子

重点項目

柱2-2

様々な人がつながり、お互いに支え合える地域づくりを進めます

現状と課題

- ◆高齢者に対する虐待や児童虐待などの事例においては、それぞれの家庭において家族関係、失業や経済的な問題、介護負担が要因となる重層的な問題を抱えている場合もあり、児童や高齢者、障害者の権利擁護と自立支援の観点からも、相談や発見を早期に行い、問題の解決を図るための体制の整備、家族に対する支援の充実が求められています。
- ◆地域の潜在的な生活課題の発見には、地域全体の見守りを更に推進するとともに、民間協力事業者による緩やかな見守りと合わせ、地域での気づきの目を広げていくことが求められています。
- ◆少子高齢化、核家族化、生活スタイルの変化により価値観が多様化する中で、すべての住民がその人らしい生活を送る権利が保障され、必要な援助を受けられることができる環境を充実させることは地域福祉を考える上で重要なことです。
- ◆一人ひとりがお互いの権利が侵害されることなく、安全で安心した生活を送るためには、一人ひとりの人権が尊重され、権利が擁護されなければいけません。特に判断能力が十分でない場合等に、権利が保障されるための取組を推進します。

柱2-2-1

当事者やその家族、多世代の交流を深める取組の推進

柱2-2-2

見守り・支え合いのネットワークづくりの推進

柱2-2-3

権利擁護の推進

将来の目指す姿

- 1 地域全体で日頃からの見守り・顔の見える関係づくりが進み、支援を必要な人が孤立することなく、どこかにつながることができています。
- 2 どこに相談しても必要な機関につながる体制づくりが進んでいます。
- 3 生活課題が複合化・深刻化する前の段階で早期に発見され、適切な支援につながっています。
- 4 地域全体でいざというときに支援を必要とする人を支えることができる活動がひろがっています。

コラム

かちだ地区おもしろネットワーク連絡会(かちだ地区)

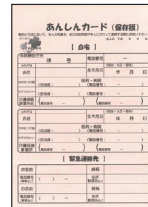
高齢者の多い勝田団地では住民主体の地域活動として、誰もが安心して元気に暮らせる団地を目指す「かちだ地区おもしろネットワーク連絡会」があります。毎週開催のサロン、緊急連絡先カードやあんしんカードの取組、災害時安否確認訓練、毎朝の健“幸”ラジオ体操、夜間ライト運動など孤立させない地域づくりの取組が平成20年から続いています。




ここ数年、団地内のスーパー等が撤退し、買い物という新たな生活課題に直面。生活課題や生活ニーズ、担い手を把握するため、全世帯向けアンケートを実施しました。その結果、住民のニーズの半分が買い物であり、新栄地域ケアプラザ協力のもと課題解決に向けた組織づくりを進め、平成30年10月に住民主体の買い物等代行「おたがいさま会」が発足しました。




おたがいさま会

平成31年度の依頼実績は143件となり、住民の皆さんの暮らしを支える重要な活動のひとつとなっています。



| 柱2-2-1 当事者やその家族、多世代の交流を深める取組の推進 | |
|---------------------------------|--|
| 内容 | (1)地域住民、企業や関係機関と協力して、誰もが利用できる居場所を増やすなど、様々な人の交流の充実を図ります。 (2)妊産婦、子どもとその養育者、介護者、障害者とその家族等が生き生きと過ごせる場や、地域の人と交流できる機会や場づくりを進めます。 |
| 具体的な取組 | ◆地域の活動団体同士の交流の場づくり ◆当事者やその家族などが孤立しないための取組の充実 ◆市立保育園における子育て支援と交流の場の充実 ◆困難を抱える小中学生への学習支援や居場所づくり |
| 活動指標 | 【定量評価】 企業等が主催・共催し誰もが利用できる地域の居場所の数 現状値(令和元年度):3か所 目指す方向性:↗ |
| SDGs |          |

| 柱2-2-2 見守り・支え合いのネットワークづくりの推進 | |
|------------------------------|---|
| 内容 | (1)家族や近所の人、周囲の人の変化に気づき、身近な支援機関や支援者、区役所等につなげる大切さを区民に伝えるためのPRを実施します。 (2)日頃の活動を通して地域住民等の変化に気づく意識を広めるため、企業、商店、施設、NPO法人等との連携を推進します。 (3)災害時などの緊急時に備えて、平常時から顔の見える関係を築けるよう、災害時要援護者支援等を通じた地域主体の見守り活動のさらなる支援を進めます。 |
| 具体的な取組 | ◆地域の交流サロンでの情報提供 ◆困りごとを抱えている人に早期に気づき、支援につなげる相談窓口(関係機関)の広報・啓発 ◆支援が必要な人だけでなく、その予兆がある人を必要な支援につなげるための地域や関係機関・学校・企業等のネットワーク構築の推進 ◆都筑区災害時要援護者支援事業「つつき そなえ」の実施 |
| 活動指標 | 【定量評価】 要保護児童等対策地域協議会地区別会議・分野別会議(講座等)開催数 現状値(令和元年度):2回 目指す方向性:↗ 【定性評価】 分野別また分野を超えたネットワーク構築の推進状況 |
| SDGs |      |

| 柱2-2-3 権利擁護の推進 | |
|----------------|--|
| 内容 | (1)成年後見制度等の権利擁護を必要とする人を早期に発見し相談対応していくために、必要な広報等を関係機関等と連携して実施します。 (2)制度を活用するにあたり、必要な制度・体制を整備するほか、自己決定の支援に向けた必要な取組を進めます。 |
| 具体的な取組 | ◆障害者等の当事者への理解と見守りを広げていくための取組の検討(自立支援協議会) ◆権利擁護事業(日常生活自立支援事業)、成年後見制度の普及・促進 ◆エンディングノート等自己決定の支援のための取組の推進 |
| 活動指標 | 【定量評価】 エンディングノートの配布数 現状値(令和元年度):4,400件 目指す方向性:↗ |
| SDGs |        |

コラム

都筑区基幹相談支援センター くさぶえ

都筑区基幹相談支援センターくさぶえは、都筑区福祉保健センターや都筑区生活支援センターこころ野と連携し、障害のある人やその家族などからの相談に応じるとともに、地域の人や関係機関等とも連携し、「障害のある人も、誰もが暮らしやすい地域づくり」に取り組みます。

【権利擁護・虐待の防止の取組】

基幹相談支援センターの取組の一つに「権利擁護・虐待の防止の取組」があります。意思決定支援、権利侵害の防止、成年後見制度の利用案内・申立ての支援、関係機関への普及啓発などを行っています。

【都筑区自立支援協議会】

障害のある人が住み慣れた地域で、その人らしく暮らし続けるために、都筑区の障害福祉に関わる機関・団体が集まり、ネットワークをつくっています。

その中で、『つづきまるとプロジェクト』では、「障害のある人も、ない人も、誰もが暮らしやすい都筑区」を目指して、地域ケアプラザと一緒に、世代・障害に関わらず色々な人との交流ができるカフェや、障害理解を深める地域住民向けの講座を企画・実施しています



地域交流事業(園芸ボランティア)



日中活動

現状と課題

- ◆健康づくりには、一人ひとりが自らの生活習慣の改善に取り組むことも大切ですが、それに加えて、人と人とのつながりをつくることも重要であるといわれています。一人ひとりが健康への意識を高め自分にあった方法で健康づくりを進めるとともに、地域の中で継続的に健康づくり活動が行われることが必要です。
- ◆誰もがいきいきと暮らすためには心身の健康の維持や増進が重要であり、乳幼児期から高齢期のライフステージにあわせた病気の予防的視点をもった取組が必要です。
- ◆都筑区は15歳未満の人口が多い一方で高齢者人口の伸び率は高く、今後高齢化が急速に進んでいくことが予想されます。そのため、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、健康づくりや社会参加の取組を進めていくことが重要です。
- ◆保健・医療・福祉の3分野に加えて、様々な分野が相互に密接な関係を形成し、ネットワーク化を図ることにより、利用者に効果的・効率的なサービスの提供や支援ができる環境の整備が必要です。

柱2-3-1

地域主体の健康づくりの推進

柱2-3-2

子どもや働き・子育て世代の健康づくりの推進

柱2-3-3

健康づくり・介護予防の推進

柱2-3-4

保健・医療・福祉等の多分野による連携の促進

将来の目指す姿




- 1 子どもや若い世代からの健康づくりや病気の予防的視点を持った取組が充実し、健康寿命が延びることで、高齢になっても自分らしい生活を実現できる人が増えています。
- 2 子どもがいきいきと健やかに育ち、高齢者が元気に地域活動の担い手として力を発揮でき、あらゆる世代が健康に生活できるための環境づくりや取組が進んでいます。
- 3 年代や病気や障害等の違いなど様々なニーズに合った健康づくり活動が増え、健康づくり活動を通じてつながりが生まれ、地域の活性化にもつながっています。




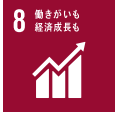

コラム

シェアリーカフェ ～スローカフェ都筑～




中川地区には横浜市通所型支援サービスB事業(介護予防や生活支援の活動を補助し、高齢者が自分らしい生活を送れる地域を目指す為の横浜市独自の補助金事業)として、NPO法人 I Love つづき ～スローカフェ都筑～があります。中川駅より徒歩3分程にある人気のパン屋さんが入るビル内、シェアリーカフェにて毎週金曜日の午前中に行われています。ソプラノ歌手による歌唱やスチールギター・アコースティックギターの演奏、大人の読み聞かせやお茶講座、顔ヨガ講座など、さまざまなプログラムの提供が行われています。講座後には中川駅周辺のお店からのデリバリーで週替わりで色々なランチが楽しめる事は勿論ですが、地域の活性化にもつながっています。



| 柱2-3-1 地域主体の健康づくりの推進 | |
|----------------------|--|
| 内容 | (1)身近な地域で行われる健康づくりや介護予防の活動等が充実するよう、保健活動推進員、食生活等改善推進員(ヘルスマイト)、介護予防ボランティアなどの地域人材が中心となり、参加しやすい活動を進めます。 (2)老人クラブ等と連携し、高齢者が活動・活躍できる場や機会をつくり、地域活動の一層の活性化につなげます。 |
| 具体的な取組 | ◆元気づくりステーションの立ち上げや運営支援 ◆保健活動推進員や食生活等改善推進員(ヘルスマイト)などと連携したロコモ予防の普及啓発 ◆自分の健康状態を知る機会づくり ◆地域人材の養成支援 |
| 活動指標 | 【定量評価】 ●元気づくりステーションのグループ数 現状値(令和元年度):18グループ 目指す方向性:↗ ●地域での保健活動推進委員による健康チェック実施回数 現状値(令和元年度):43回 目指す方向性:↗ |
| SDGs |    |

| 柱2-3-2 子どもや働き・子育て世代の健康づくりの推進 | |
|------------------------------|---|
| 内容 | (1)若い世代が多く住むという都筑区の特徴を踏まえ、子どもの頃から心身の健康づくりに関わる取組を進めます。また、仕事や子育て等で忙しい中でも生活習慣を見直すきっかけとなるよう、働き・子育て世代に多い心身の健康問題に関する啓発を進めます。 |
| 具体的な取組 | ◆企業や地域団体等と連携した健康講座の開催 ◆食生活等改善推進員(ヘルスマイト)と連携した保育園や小学校等での食育交流会の実施 ◆乳幼児健診や両親教室等での健康づくりに関する情報提供 ◆むし歯・歯周病予防やオーラルフレイル予防の取組の推進 |
| 活動指標 | 【定量評価】 食育・健康フェアの参加団体数・参加者数 現状値(令和元年度):18団体・約700人 目指す方向性:↗ |
| SDGs |      |

柱2-3-3 健康づくり・介護予防の推進

| | |
|--------|---|
| 内容 | (1)高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の特性を活かしながら、介護予防に取り組める事業を展開します。 (2)高齢者の生活課題を解決するために、高齢者の暮らしの状況や生活上のニーズを把握します。 |
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ◆都筑野菜や緑道などの区内の資源を活用した取組の推進 ◆むし歯・歯周病予防やオーラルフレイル予防の取組の推進【再掲】 ◆元気づくりステーションの立ち上げや運営支援【再掲】 ◆要支援1・2の要支援認定を受けた人等への介護予防の推進及び生活支援サービスの提供 |
| 活動指標 | 【定量評価】 健康づくり・介護予防普及啓発講座等の開催数、参加者数 現状値(令和元年度):24回・535人 目指す方向性:↗ |
| SDGs |    |

コラム 元気づくりステーション

元気づくりステーションは、市内在住の高齢者が幅広く参加できる、介護予防に資する活動を行うグループです。高齢者が地域の中で人とつながりながら、健康で生きがいのある生活ができることを目的として活動しています。現在、都筑区では17か所(令和2年12月末時点)の元気づくりステーションが活動しています。どのグループも、地域の介護予防活動のモデルであり、中核を担う存在です。

元気づくりステーションの活動は、屋外で行うウォーキングや、農作業、屋内で行う体操やヨガ、調理、脳トレなど、内容は様々です。地域の人々によって運営され、参加する皆さんがそれぞれできることを協力し合いながら行い、主体的に活動しています。

今後も、高齢者が歩いて行ける身近な場所に、主体的・継続的な介護予防に取り組む様々なグループの活動を広げていくために、区役所では、住民の皆さんと共に、元気づくりステーションの立ち上げや運営支援に取り組んでいきます。



ポールウォーキング
(元気づくりステーションねこの手)

| 柱2-3-4 保健・医療・福祉等の多分野による連携の促進 | |
|------------------------------|---|
| 内容 | (1)保健・医療・福祉分野における多職種での、また地域の関係機関間での情報交換の場の設定等を行い、横のつながりづくりを促進します。 |
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ◆地域の实情に合わせた生活支援サービス提供の仕組みづくり ◆地域ケア会議を活用した高齢者支援等に関するネットワークの構築 ◆高齢者、障害者、子ども等の分野ごとのケアマネジメント機関の連携促進 |
| 活動指標 | 【定性評価】 <ul style="list-style-type: none"> ●区域で行われている各分野のネットワーク会議の開催状況 ●地域ケアプラザ圏域で行われている各分野のネットワーク会議の開催状況 |
| SDGs |     |

コラム

都筑区子育て支援センター「ポポラ」

都筑区子育て支援センター「ポポラ」は、誰もが気軽に立ち寄れる子育ての休憩所のようなところです。自由に過ごせるひろばをはじめ、子育て相談、情報提供、ネットワークづくり、人材育成、子育てサポートシステム、子育てパートナー（利用者支援）の7つの事業を区役所とともに運営しています。令和元年には都筑の南部地域に、「都筑区子育て支援センターポポラサテライト」がオープンしました。子育て支援に関わる人々と一緒に地域のネットワークづくりにも取り組み、都筑区の子育て拠点としての役割も担っています。

都筑の街で安心して子育てができるように、子育て支援関係者のつながりを目的として、平成22年度から区役所と都筑区子育て支援センターポポラが事務局となり、「子育てネットワーク交流会」を開催しています。今では100名を超えるほどの子育て支援関係者が集まり、子育て支援の輪が広がっています。交流会では、毎年、地域ごとの活動発表や、ワールドカフェ方式のグループワーク、映画鑑賞などを実施し、支援者同士が交流しながら地域で抱える課題を共有し、解決の糸口を見つけられるように工夫しています。また、子育て中の親や子どもの笑顔を増やすため、まずは支援する人たちが元気で活動できるようにと互いの活動を認め合い、そしてあらためて子育て支援の大切さややりがいを確認できる場ともなっています。交流会をきっかけに、外遊びや地域のサロンの開催、各エリアの子育てマップ作成など地域での新たな取組にもつながっています。

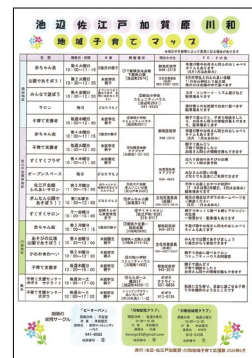
子どもが生まれ、育っていくときには、身近に成長を一緒に見守ってくれる人、気軽に相談できる人がいることが大切です。地域で子育てを支える人たちがつながり、安心して子育てできるためのネットワークづくりをすすめています。

【子育てネットワーク交流会のメンバー】

民生委員・児童委員、主任児童委員、保健活動推進員、子育て支援者、市立保育園、こにちは赤ちゃん訪問員、民間保育園、横浜保育室、ログハウス、地区センター、コミュニティハウス、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会、親と子のつどいの広場、乳幼児一時預かり事業者等の子育て支援関係者で子育てネットワーク交流会を行っています。



ネットワーク交流会



子育てマップ